

## 巻頭言

三井住友建設技術開発センター報告第7号の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

サブプライムローン問題による2008年9月のリーマンブラザース破綻を契機とした世界同時不況により、この1年景気が一気に冷え込みました。この影響を受け、わが国の設備投資は急激に落ち込みましたが、2009年度においてやや落ち着きを取り戻してきています。しかしながら、建設業界における景気動向指数は他業種に比べてまだまだ低い水準に留まっている状況です。さらに、国内の政治状況も激変し、先行き不透明のなか、建設業における景気動向予測も予断を許さない状況にあります。

弊社におきましても、このような社会状況・市場動向に迅速に対応して、生き残りを図っていくため、昨年度より構造改革を強力に推し進めています。そのなかで、技術研究開発部門においても技術開発の推進方法、およびそのための組織についての改革を実行してまいりました。この一環として、2009年1月には従来の「技術研究所」を「技術開発センター」と改称し、センター長の下に各技術開発グループを置くフラットな組織構造とすることにより、技術開発のスピードアップと多様化する技術に対するフレキシブルな開発を可能とする体制にしました。したがって、本報告集も本年度より「技術開発センター報告」と名称を改めております。

弊社では現在、「三井住友建設ブランド」の構築に向け、諸施策を全社一丸となって推進しています。技術開発センターにおいては、「高品質化」、「高機能化」をテーマとして、土木・建築両部門の高品質化委員会と連動するなど社内関係部署と連携し、「高品質化」、「高機能化」に資する技術開発を推進しております。PC橋梁、超高層住宅など得意分野の更なる高度化、高付加価値化、今後ますます需要が高くなる環境関連技術、新たに成長が期待される様々な産業分野への適用技術など、顧客ニーズを的確に捉えた技術開発により、未来社会の構築に貢献していく所存です。

技術開発センター報告を多くの方々にご覧頂き、ご批評を賜れば幸いです。

2009年9月

常務執行役員

技術研究開発本部長 兼 技術開発センター長

黒崎 幸夫